

# EVENT REPORT

平成28年  
7月16日  
[土]

青葉の森公園  
芸術文化ホール  
イベント  
レポート

ホームページ



<http://www.aobageibun.com/>

当ホール主催の公演・講座の雰囲気をみなさまに発信する「ボランティアライターズ」の方によるレポートをお届けします。

## 千葉ゆかりの物語 朗読会

出演 朗読講座受講生  
講師 雨宮陽子、今村容子

### 「朗読作品／朗読者」



- 一 羽衣(『千葉のむかし話』より) 桐谷美智代 中村美津江
- 二 千葉常胤(『千葉の先人たち』より) 荒川暁美 大石れい子  
塚本信子
- 三 千葉笑い(『千葉のむかし話』より) 太田文枝 絹川厚代
- 四 こころ 伊藤早苗 熊谷優子  
高橋耿子
- (休憩)
- 五 カゼヲキル 伊藤泰子 国吉辰俊  
梶原喜代子 野口直美  
松林百合子
- 六 あぼやん 入江栄喜 佐藤美恵子  
菅原いく子 谷千和子  
新沼美和子
- 七 天地明察 飯嶋多賀子 猪俣一男  
小川純一 笠島優子  
形山キエ 佐野祐子

※やむを得ない事情により朗読者が変更になる場合がございます



千葉に住み、数十年がたつが、いたい私はどのくらい千葉のことを知っているのだろうか…そんな思いを抱き、朗読に耳を傾けていた。

千葉開府 890 年という今年、選出された物語は、100 万都市江戸を支えた町、成田、佐倉等を舞台に書かれた 6 作品。

物語は『千葉』という県名に由来する人物の伝説から始まった。

他にも諸説あるが、常重、常胤の一族の千葉氏が、現在の千葉県の由来とされているそうだ。

また、今年は夏目漱石没後 100 年ということで、小説『こころ』から、登場人物が千葉を旅行した箇所を抜粋し朗読。この夏、漱石も作品を書くにあたり、訪れたかもしれない場所を巡ってみるのも楽しいかもしれない。

休憩後は、ぐっと現代に引き戻される。読まれたのは、近年映画やドラマにもなった『あぼやん』『天地明察』。また千葉県出身の元マラソン選手増田明美さん著書『カゼヲキル1巻助走』の朗読が続いた。

時折、朗読者が間違えたり、言葉が詰まったりしたのだが、そういうことがないこの人たちがプロの役者さんではなく、朗読講座を受講している生徒さんたちだということを感じ出せなかったかもしれない。

とても個性的な声をお持ちだったり、感情表現が豊かだったり、あつという間に時間が経っていた。

1人、本を手に取り読書するのもいいが、こうして朗読を通して本を楽しむのも違った発見があつていいかもしれない。

ボランティアライターズ辻康子